

小平第八小学校、小平第十一小学校及び平櫛田中彫刻美術館記念館に関する更新等について

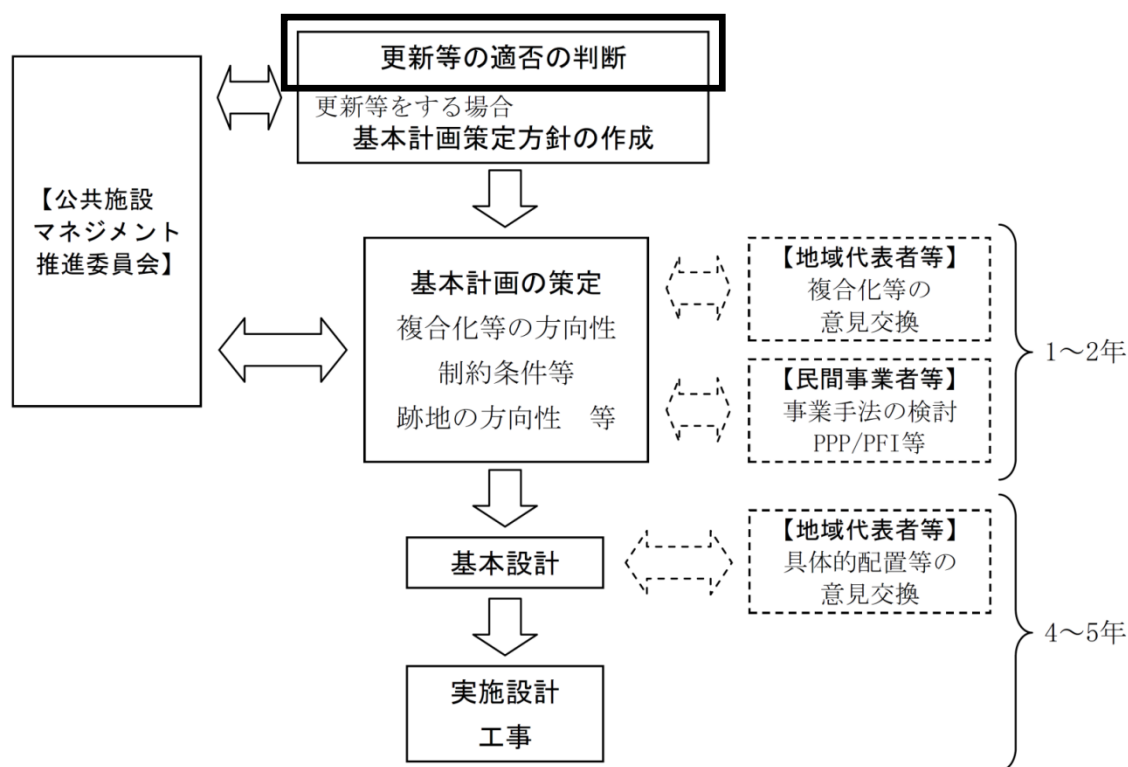
1 背景及び位置づけ

平成27年2月に「小平市公共施設白書」を発行し、同年12月に「小平市公共施設マネジメント基本方針」を策定しました。白書で示した将来的な大きな3つの課題（「人口減少・少子高齢化」、「財政バランスの悪化」、「施設の老朽化・更新時期の集中」）に対応するため、基本方針では市制施行100周年を迎える平成74年度を見据え、「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」という基本理念と4つの方針（「魅力あるサービスの実現」、「持続可能な施設総量」、「コストの縮減と平準化」、「長く活用できる施設」）を定めました。

また、基本方針に沿った取組の推進に向けた方策を示した「小平市公共施設マネジメント推進計画」（平成29年3月策定）では、すでに目標耐用年数を迎えた施設、または計画期間中に目標耐用年数を迎える施設の更新等に向けた「基本的な検討手順」を示しています。

この「基本的な検討手順」に沿い、小平第八小学校及び平櫛田中彫刻美術館記念館に関する更新等の適否の判断をします。

なお、平成29年度の劣化診断の結果を考慮し、小平第十一小学校についても平成30年度に更新等の適否の判断を行うこととするとともに、小平第八小学校及び小平第十一小学校における校舎及び体育館の目標耐用年数は近いことから、更新等の適否は校舎と体育館を同時に判断することとしました。



2 対象施設の概要

(1) 小平第八小学校

所在地	鈴木町一丁目355番地
用途地域(建ぺい率・容積率)	第一種低層住居専用地域(40%・80%)
土地面積	15,174.20㎡
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	校舎1964年(昭和39年)、体育館1974年(昭和49年)
構造	鉄筋コンクリート造(校舎)、一部重量鉄骨造(体育館)
建築面積(建ぺい率)	校舎2,165.58㎡(14.27%)、体育館730.66㎡(4.81%)
延床面積(容積率)	校舎5,606.78㎡(36.94%)、体育館844.34㎡(5.56%)
階層	校舎 地上3階、体育館 地上2階
構成(部屋名)	校舎 普通教室、特別教室、職員室、給食室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
経過年数、目標耐用年数(到来年)	校舎 54年経過、60年(2023年) 体育館 44年経過、60年(2033年)
現行耐震基準	適合
設置目的	心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す
サービス内容	普通教育
同分類(類似)施設	【施設分類】 学校(学校教育系施設) 【同分類(類似)施設】 小・中学校
近隣施設	消防団第七分団、鈴木地域センター、天神地域センター、御幸地域センター、鈴木公民館、鈴木遺跡資料館、天神テニスコート、天神グラウンド、小平第三小学校、小平第九小学校、鈴木小学校、小平第三中学校、花小金井南中学校、三小児童クラブ第一・第二、九小児童クラブ第一・第二、鈴木小児童クラブ、あおぞら福祉センター、旧鈴木保育園

(2) 小平第十一小学校

所在地	花小金井四丁目16番1号
用途地域(建ぺい率・容積率)	第一種低層住居専用地域(40%・80%)
土地面積	14,514.36㎡
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	校舎1967年(昭和42年)、体育館1974年(昭和49年)
構造	鉄筋コンクリート造(校舎)、一部重量鉄骨造(体育館)
建築面積(建ぺい率)	校舎2,304.38㎡(15.87%)、体育館745.34㎡(5.13%)
延床面積(容積率)	校舎5,361.09㎡(36.93%)、体育館843.13㎡(5.80%)
階層	校舎 地上3階、体育館 地上2階
構成(部屋名)	校舎 普通教室、特別教室、職員室、給食室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
経過年数、目標耐用年数(到来年)	校舎 51年経過、60年(2026年) 体育館 44年経過、60年(2033年)
現行耐震基準	適合
設置目的	心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す
サービス内容	普通教育

同分類(類似)施設	【施設分類】 学校(学校教育系施設) 【同分類(類似)施設】 小・中学校
近隣施設	消防団第五分団、花小金井北地域センター、花小金井北公民館、中央図書館花小金井北分室、花小金井武道館、大沼グラウンド、花小金井四丁目市民広場、小平第六中学校、花小金井保育園、十一小学童クラブ第一・第二、高齢者館(さわやか館)、高齢者デイサービスセンター

(3) 平櫛田中彫刻美術館記念館

所在地	小平市学園西町一丁目7番5号
用途地域(建ぺい率・容積率)	第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域(60%・200%)
土地面積	1,925.01㎡(平櫛田中彫刻美術館全体)
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1968年(昭和43年)
構造	木造
建築面積(建ぺい率)	442.74㎡(22.99%)
延床面積(容積率)	439.33㎡(22.82%)
階層	地上1階
構成(部屋名)	旧平櫛田中氏住居(現展示施設)
経過年数、目標耐用年数(到来年)	50年経過、40年(2007年)
現行耐震基準	不明(未調査)
設置目的	小平市名誉市民、彫刻家平櫛田中翁終えんの館(記念館)を保存し、及び公開するとともに、平櫛田中翁の作品及びゆかりの美術品を保管し、及び展示し、もって市民の文化の発展に寄与することを目的とする
サービス内容	美術館の作品及び施設を保存公開し、平櫛田中芸術の普及伝承を行う
同分類(類似)施設	【施設分類】 博物館等(市民文化・社会教育系施設) 【同分類(類似)施設】 小平ふるさと村、鈴木遺跡資料館、民具庫、公共下水道管理センター(ふれあい下水道館)
近隣施設	上水本町地域センター、学園西町地域センター、上水南公民館、津田公民館、津田図書館、中央図書館上水南分室、平櫛田中彫刻美術館(展示館)、公共下水道管理センター(ふれあい下水道館)、小平第四小学校、小平第十小学校、小平第四中学校、上水中学校、津田保育園、四小学童クラブ、十小学童クラブ第一・第二・第三

3 更新等の適否の判断

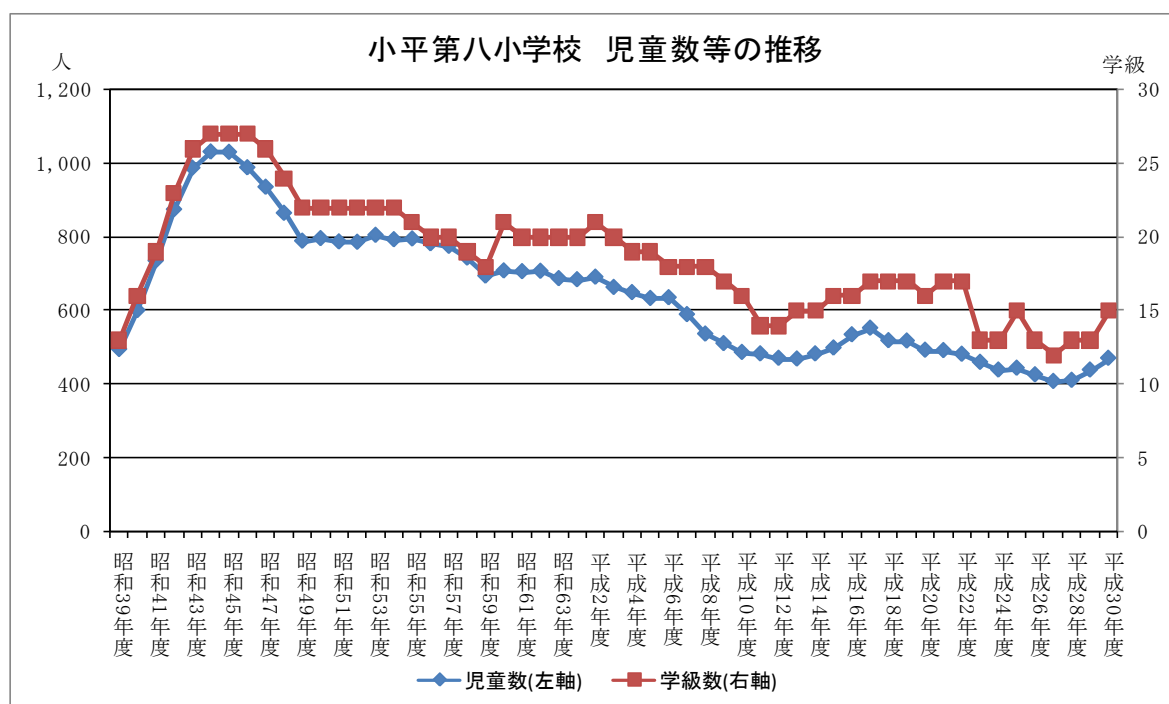
(1) 小平第八小学校

小平第八小学校は、小平第五小学校の分校として1964年(昭和39年)に開校しました。1969年(昭和44年)には、敷地内に奈良時代の竪穴式住居が発見され、八小遺跡と名付けられています。2014年(平成26年)には、創立50周年を迎えています。

校舎は、開校時の1964年(昭和39年)に建設してから、児童の増加に合わせて昭和40年代にはほぼ現在の校舎形状となり、1985年(昭和60年)に現在の状況となりました。体育館は、1974年(昭和49年)に建設しています。校舎は1999年(平成11年)に、体育館は2009年(平成21年)に、耐震補強工事を実施しています。

◆児童数の推移

児童数は、開校当時は494人で、昭和40年代には1,000人を超えましたが、その後徐々に減少し、一時は400人程度となりました。ここ数年は学区内の開発等により上昇傾向となり、2018年(平成30年)は470人となっています。



◆コミュニティの状況

小平第八小学校地域は学校経営協議会、学校支援ボランティア、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会などによる、地域コミュニティ活動が活発に行われています。平成23年度にはコミュニティ・スクールの指定を受けています。鈴木公民館のコミュニティづくりでは、公民館事業企画委員会が先駆的に設置され充実した連携活動が行われています。あおぞら福祉センターとの連携も盛んに行われています。

◆建物の状況

2017年(平成29年)劣化診断実施

2018年(平成30年)年度末までに、更新等の実施の適否を判断

◆周辺施設の状況

施設名	目標耐用年数到来年	地域/広域	床面積	備考
小平第八小学校	2023	地	5,606.78	
小平第八小学校体育館	2033	地	844.34	(学童クラブ含む)
鈴木地域センター	2042	地	591.00	(第八小学校隣接)
鈴木公民館	2060	地	754.00	(都営住宅内)
鈴木小学校	2035	地	4,585.32	
鈴木小学校体育館	2035	地	843.05	(学童クラブ含む)
御幸地域センター	2050	地	675.25	

◆劣化診断の状況

校舎については、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は一部において鉄筋近くまで進行していましたが、全体的には概ね良好な状態であり、適切な保全対策を行っていくことにより、ただちに校舎全体を更新しなければならない状態ではないと判断されます。目標耐用年数は50～80年以上と推定されます。

体育館についても、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は健全な状態を保っており、目標耐用年数は80年以上と推定されます。

◆更新等の適否の判断

今後の児童数の推計では、学区内の大規模開発の影響により短期的には急激に児童が増加する可能性があります。長期的にも平成27年国勢調査による町丁別将来人口では、主な学区域となる御幸町、鈴木町二丁目の年少人口は急激な増加の後も2035年頃まで大幅に減少する見込みはなく、また、劣化診断の結果も踏まえ、当面の間は機能を維持し、おおむね15年程度継続して使用することとし「更新等を行わない」ものとします。

今後は、一部中性化が進行している棟の対応、屋上防水や外壁などの改修や、トイレなどの機能向上の検討を進めます。

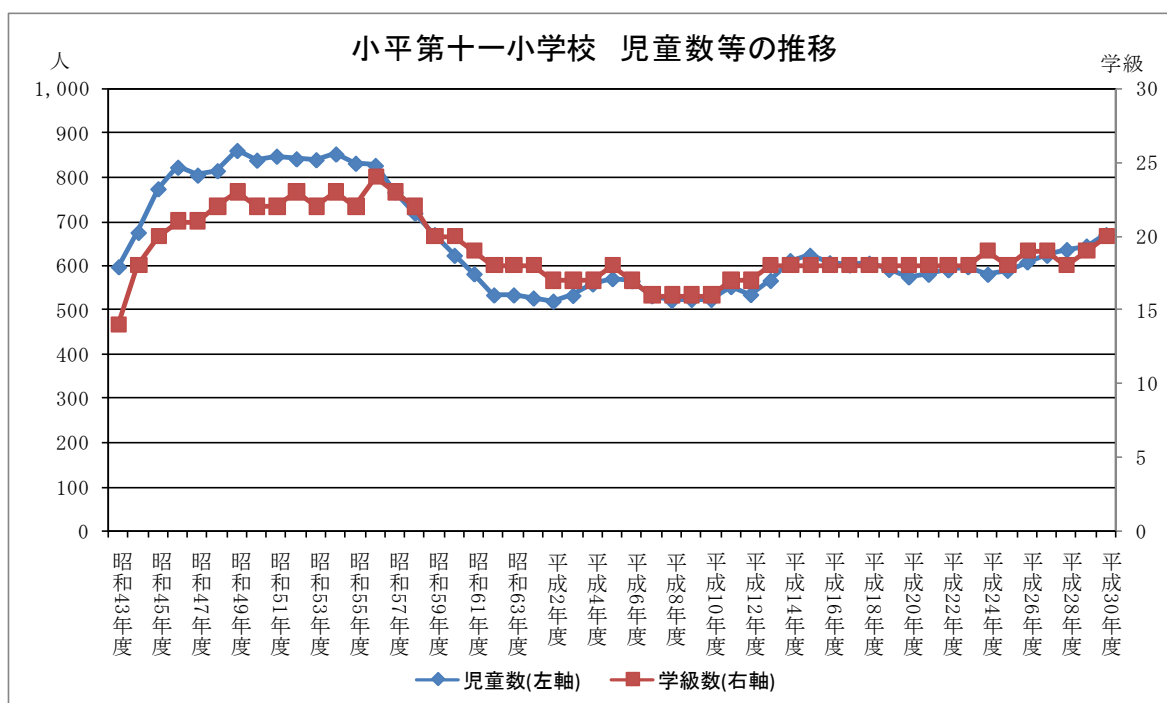
(2) 小平第十一小学校

小平第十一小学校は、小平第五小学校の分校として1967年(昭和42年)に開校し、2017年(平成29年)には、創立50周年を迎えています。

校舎は、開校時の1967年(昭和42年)に建設してから、児童の増加に合わせて昭和40年代にはほぼ現在の校舎形状となり、1978年(昭和53年)に現在の状況となりました。体育館は、1974年(昭和49年)に建設しています。2005年(平成17年)に、校舎・体育館ともに耐震補強工事を実施しています。

◆児童数の推移

児童数は、開校当時は597人で、昭和40年代から50年代にかけて800人を超えましたが、その後減少し、昭和60年代は530人程度となりました。ここ数年は上昇傾向となり、2018年(平成30年)は670人となっています。



◆コミュニティの状況

小平第十一小学校地域は、学校支援ボランティア、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会など、地域コミュニティの活動が盛んに行われています。学校及び青少年対策地区委員会を中心に、小平第七小学校、小平第六中学校との小・小連携、小・中連携の取組も深まっています。

◆建物の状況

2017年(平成29年) 劣化診断実施

2019年(平成31年) 年度末までに、更新等の実施の適否を判断

◆周辺施設の状況

施設名	目標耐用年数到来年	地域/広域	床面積	備考
小平第十一小学校	2026	地	5,361.09	
小平第十一小学校体育館	2033	地	843.13	(学童クラブ含む)
十一小学童クラブ第一	2046	地	143.52	
花小金井北地域センター	2049	地	596.86	
花小金井北公民館	2033	地	417.00	(複合施設)
中央図書館花小金井北分室	2033	地	24.14	
花小金井保育園	2033	地	622.00	
高齢者デイサービスセンター	2061	広	199.51	(都営住宅内)
高齢者館(さわやか館)	2061	広	700.40	(都営住宅内)

◆劣化診断の状況

校舎について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、昭和40年代前半に建築された初期の部分については、中性化が鉄筋に達しています。鉄筋に顕著な腐食は見られないため、現状では安全性を脅かすような状態ではありませんが、更新等を考える時期に来ていることが窺われます。目標耐用年数は、80年以上の部分もありますが、多くは50年程度です。

体育館についても、中性化が進行しています。校舎と同様、鉄筋に顕著な腐食は見られないため、現状では安全性を脅かすような状態ではありません。目標耐用年数は45年程度と推定されます。

◆更新等の適否の判断

今後の児童数の推計では、数年は微増傾向が続く見込みであり、長期的には平成27年国勢調査による町丁別将来人口では、主な学区域となる花小金井二丁目から五丁目まで及び花小金井八丁目の年少人口は現状とほぼ変わらず推移する見込みです。

建物の状況は、中性化が鉄筋に達している部分もあり、目標耐用年数を迎つつあることから、「更新等を行う」ものとします。

(3) 平櫛田中彫刻美術館記念館

平櫛田中彫刻美術館記念館は、1968年（昭和43年）に国立能楽堂設計などの建築家である大江宏氏の設計により建築され、小平市名誉市民である彫刻家平櫛田中が邸宅として晩年を過ごした建物です。

1979年（昭和54年）に平櫛田中が死去した後に、邸宅を広く公開するために1984年（昭和59年）に小平市平櫛田中館として開館しました。1993年（平成5年）に隣接地に市が展示館を新築し、彫刻作品等を展示しています。2006年（平成18年）には、遺族から記念館建物（邸宅）の寄贈を受け、また同時に市が敷地を購入したことを機に、小平市平櫛田中館から小平市平櫛田中彫刻美術館へと改称しました。

小平市平櫛田中彫刻美術館は、展示館と記念館及び玉川上水を借景とする庭園により構成される施設となっています。

◆市の文化施策における平櫛田中彫刻美術館の位置づけ

小平市では、「小平市の文化振興の基本方針（改定版）」（平成28～32年度）において、小平市ゆかりの芸術家である平櫛田中を文化資源と位置づけ、これらの文化資源を活用することを重点的な取組としています。その上で「歴史的文化資源の継承と魅力の発信」を取組の柱の一つとして挙げており、平櫛田中の彫刻作品と現在の記念館である邸宅を、貴重な文化資源として「より多くの市民が関心を持ってもらえるよう取組を進めていきます」としています。

この方針に基づき、平櫛田中彫刻美術館では、ミュージアムグッズの販売や、平櫛田中ゆかりの他市美術館との広域連携、市内大学及びルネこだいら等との連携によるイベント事業の実施、また、市内小・中学校の社会科見学の受け入れを行うなど、様々な企画、イベントの開催を行い、それらを通じて同美術館の魅力の発信と、市民の文化芸術に対する意識の醸成を図っています。

◆平櫛田中彫刻美術館の管理・運営手法

平櫛田中彫刻美術館は、2006年（平成18年）に平櫛田中の孫であり同美術館館長である平櫛弘子氏から記念館の寄贈を受けた際、小平市が将来にわたり管理・運営に携わってほしいという意向を受けています。

こうした遺族の意向を踏まえるとともに、同美術館は、個人美術館としての性格が強いことから、田中作品の鑑定人であり、平櫛田中という人物をよく知る平櫛弘子館長、および館長とともに平櫛田中と近代日本彫刻を専門に研究しノウハウを蓄積してきた市の直営の体制により管理・運営を行い、学芸機能や資料の調査研究の充実を図ってきています。なお、学芸業務を除く日常的な施設管理等は嘱託職員により行い、コスト面での効率化は図られている状況があります。

◆建物の状況等

構造は木造で目標耐用年数は40年であり、既に目標耐用年数を超えています。また、耐震性については未調査の状況です。

◆更新等の適否の判断

平櫛田中彫刻美術館は、展示館・記念館・庭園が一体となった美術館であり、そのことが大きな魅力となっています。田中の晩年の邸宅であり、終焉の館である記念館は、田中が生活し創作活動を行った雰囲気、息吹を感じることができる施設であり、さらに、国立能楽堂等を設計した著名な建築家の大江宏氏の設計によって建築された、貴重な文化遺産であると言えます。

平櫛田中彫刻美術館記念館が、「小平市の文化振興の基本方針（改定版）」において、市の貴重な文化資源として位置づけられ、小平市の文化振興の拠点としての活用を掲げていることも踏まえ、平櫛田中彫刻美術館記念館を保存し「更新等を行わない」ものとします。

今後の公開に関しては、可能な限り速やかに耐震診断及び健全性調査を実施し、調査結果に応じて、建物内への入場の可否について検討します。

また、平櫛田中彫刻美術館の安定した運営を行うために、財源の確保に努めるとともに、効果的・効率的な管理・運営体制についても研究していきます。

4 基本計画策定に向けて

「更新等を行う」とした小平第十一小学校については、「基本的な検討手順」に基づき、基本計画策定方針を作成します。小平市公共施設マネジメント推進計画において「地域対応施設については、拠点化を図り、小学校を中心とした複合化を進めます。」としています。地域の核となる小学校の更新等であるため、建て替えに際しては、老朽化の進む花小金井北公民館をはじめ、近隣施設の複合化や機能移転の可能性を検討します。